

2019 年度 一般社団法人日本母性看護学会 総会 議事録

日 時：2019 年 6 月 15 日（土） 13：05 ～ 13：55
場 所：JMS アステールプラザ 大会議室（第 2 会場）
出席者：43 名（会場出席者 23 名、委任状 20 名）
議 長：鈴木幸子理事長

I. 開 会

1. 理事長挨拶

議事に先立ち鈴木理事長より開会にあたっての挨拶があった。

続いて、当学会の初代理事長、前原澄子氏が逝去されたことが述べられ、黙祷を行った。前原氏の功績を称え「特別名誉理事長」の称号を贈呈することが報告された。

2. 会議成立の報告

開会に際し、本総会に対する事前の委任状提出は 20 名、出席現在数は 23 名で出席者総数 43 名（総社員数 56 名）となっていることが報告され、定款第 20 条の規定により、出席した会員の議決権の過半数をもって決議を進めていくことが宣言された。

II. 議 事

1. 2018 年度事業報告

大月総務担当理事より各委員会を代表して 2018 年度の事業報告がなされた。

- 1) 総務委員会（総務）：総会、理事会を開催した。2019 年 3 月末時点の会員数は 794 名、2018 年度入会者 120 名、退会者 102 名であった。(株) ガリレオとの業務委託契約内容を見直し、再契約を取り交わした。電子ジャーナル化に伴い、ScholaroneManuscripts 利用のため(株) 杏林舎と契約を交わし、J-STAGE 利用のため科学技術振興機構に申請を行った。名誉会員および役員人数について検討し、定款の改定案の検討を進めた。
- 2) 総務委員会（会計）：会費管理、入金・支出の管理を行った。2018 年度決算書の作成を行い、税理士および監事の監査を受けた。20 周年記念事業寄付金の募集、周年事業のための積立金に関する規定を作成した。
- 3) 総務委員会（災害対応部会）：2018 年に発生した様々な災害に対し、理事長名でお見舞いメールを送った。
- 4) 総務委員会(将来構想部会)：第 20 回学術集会において 20 周年記念事業を行った。20 周年記念誌を発刊した。

- 5) 編集委員会：機関誌の編集を行い、学会誌第 19 巻特別号（20 周年記念誌）を 2018 年 11 月 30 日に、第 19 巻第 1 号を 2019 年 3 月 15 日に発刊した。学会誌電子ジャーナルへの移行に向けた準備を行った。
- 6) 広報委員会：公式ホームページの更新を 14 回行った。ニュースレター 19 号を発行した。第 21 回学術集会におけるナーシングサイエンスカフェの企画・準備を行った。
- 7) 研究・学術支援委員会（研究促進部会）：研究助成に関する情報提供を行った。本学会の 2017 年度研究助成の会計書類を検査し、適正使用を確認した。2019 年度研究助成の公募を行い、選考委員会において選考の結果、4 件の応募のうち 2 件を採択した。

2019 年度研究助成採択結果：

- ・「離島に住む女性の妊娠～子育て期におけるセルフケアに関する認識と実践」（伊東美智子氏）
 - ・「第 1 子をもつ父親の抑うつ状態に焦点をあてた地域における予防的看護介入効果の検討」（櫻沢亜希子氏）
- 8) 研究・学術支援委員会（学術支援部会）：第 20 回および第 21 回学術集会の企画・運営支援、セミナーの企画・運営を行った。第 12 回学術論文賞を 3 論文選考し、第 20 回学術集会において表彰した。
 - 9) 生涯学習支援委員会（CTG セミナー部会）：CTG セミナー 1st 及び 2nd を 1 回開催した。
 - 10) 生涯学習支援委員会（GDM セミナー部会）：第 20 回学術集会時および 2018 年 12 月に GDM セミナーを開催した。
 - 11) 看護政策検討委員会：看保連の会議・情報交換会、三保連合同シンポジウムへ参加し情報収集を行った。他学会と連携し診療報酬改定要望書提案に係る活動を行った。
 - 12) 高度実践看護師育成支援委員会：母性看護専門看護師に係る調査を行い、学会誌第 19 巻第 1 号に特別寄稿論文として発表した。第 20 回学術集会および看護科学学会学術集会において交流集会を開催した。「助産雑誌」に母性看護専門看護師の実践の連載に協力した。

2. 2018 年度収支決算報告および監査報告

坂上会計担当理事より 2018 年度収支決算報告がなされた。経常収益が 14,171,945 円、経常費用が 13,120,442 円となり、当期は 1,051,503 円の黒字となったことが説明された。これにより次期繰越金は 22,025,632 円となった。

続いて、山本監事より 2018 年度収支決算に関する監査報告がなされた。

以上の 2018 年度収支決算報告および監査報告について、満場異議なく挙手にて承

認された。

3. 定款変更について

大月総務担当理事より副理事長を1名から2名へ改定したい旨の説明があった。定款変更について、満場異議なく挙手にて承認された。

4. 2019-2022 年度評議員選挙結果報告

大月総務担当理事より、2019年2月5日～2月19日に選挙を行い56名の評議員が選出されたことが報告された。

5. 2019-2020 年度役員の承認

大月総務担当理事より、2019-2020年度の役員候補者として理事19名、監事2名について説明があった。

2019-2020年度の役員について、満場異議なく挙手にて承認された。

6. 2019 年度事業計画案

大月総務担当理事より各委員会を代表して2019年度の事業計画案について報告がなされた。

- 1) 総務委員会（総務）：総会・理事会の開催、会員管理・会員サービス・学会案内、学会に関連する事務業務の対応、定款、規程、細則等の整備を行う。
 - 2) 総務委員会（会計）：会費管理、入金・支出管理、2019年度決算、2020年度予算案の作成、年会費の検討、会計申し合わせ・様式の整備、30周年記念事業に向けた積み立ての検討を行う。
 - 3) 総務委員会（災害対応部会）：本学会における災害支援のしくみ・マニュアル作り、災害支援に関する他学会との連携を行う。
 - 4) 総務委員会（将来構想部会）：本学会将来構想のロードマップ案の策定を行う。
 - 5) 編集委員会：投稿査読新システムの導入、日本母性看護学会誌の編集・発刊として第20巻第1号2号を発刊する。
 - 6) 広報委員会：ホームページの充実、ニュースレターによる情報発信、効果的な広報活動の検討、第21回日本母性看護学会学術集会ナースィングサイエンスカフェにおける広報を行う。
 - 7) 研究・学術支援委員会（研究促進部会）：研究助成に関する情報提供、日本母性看護学会研究助成の2019年度の会計監査、2020年度の公募を行う。
 - 8) 研究・学術支援委員会（学術支援部会）：学術集会の企画・運営支援（第21回および第22回）、セミナーの企画支援、第13回学術論文賞の選考を行う。
- 第13回学術論文賞：

「第2子誕生を迎える第1子のレディネスを高めるための親役割行動」(遠山房絵氏ほか)

- 9) 生涯学習支援委員会 (CTG セミナー部会) : CTG セミナー1st および 2nd の企画・運営を行う。
- 10) 生涯学習支援委員会 (GDM セミナー部会) : 糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナーの企画・運営を行う。
- 11) 看護政策検討委員会 : 看保連に関わる活動、診療報酬改定要望書提案に関わる活動を行う。
- 12) 高度実践看護師育成支援委員会 : 母性看護専門看護師の役割認知の拡大へ向けた活動、大学(専門看護師課程)進学者の増加対策、専門看護師の実情把握と支援に関する活動を行う。

以上の2019年度事業計画案について、満場異議なく挙手にて承認された。

7. 2019年度予算案

坂上会計担当理事より2019年度予算案について報告された。2019年度の収入の合計が13,778,700円、各事業、管理費の支出の合計が15,839,400円となり、全体として2,060,700円の赤字の予算となる。赤字の要因としては各委員会の活動が非常に活発となってきていること、契約見直しによる業務委託費の増額などがある。今後の消費税の増税、物価の上昇などを踏まえ、学会の将来構想を明確にし、学会活動を更に発展させていくため年会費の値上げを検討していきたい旨が述べられた。

以上の2019年度予算案について、満場異議なく挙手にて承認された。

8. 学術集会報告

1) 第21回学術集会経過報告

藤本事務局長より、第21回学術集会の経過報告がなされた。現在のところ参加者は618名である。

2) 第22回学術集会準備報告

島袋学術集会長より第22回学術集会を2020年6月28日に開催予定であることが報告された。

9. 第23回学術集会長について

鈴木理事長より、第23回学術集会長候補について石井邦子氏(千葉県立保健医療大学)が理事会にて推薦されたことが報告された。

Ⅲ. 閉 会

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

議長署名： 鈴木 幸子

議事録署名人： 山本 あい子